

《目 次》

SEMICON West 2005 1 ~ 2 p

FPD の技術動向 3 p

LED の照明応用 4 p

燃料電池関連の最新動向 5 ~ 6 p

ナノ材料の市場 7 ~ 8 p

蠟梅 Now 9 p

第 2 回テクノセミナー「SEMICON West 2005 視察」概要

2005 年 7 月 27 日、第 2 回テクノセミナーにおいて「SEMICON West 2005 視察」の報告を行ったので、以下に概要を紹介する。

半導体産業分野では世界最大のイベント SEMICON West 2005 が 7 月 10 ~ 15 日にサンフランシスコで開催され、併設の展示会（7 月 12 ~ 14 日）を視察した。

例年、会場はサンフランシスコとサンノゼに分かれていたが、今年はサンフランシスコに集約され、会場となった中心街に位置するモスコニー・センターへは、歩いて行けるだけでなく、交通拠点や主要ホテルの間を頻繁に専用バスが往復し、移動には全く不自由がなかった。

出展企業数は 9949 社で、北・南・西に分かれたホール全体に、ぎっしりと展示がなされていた。会場の広さに比べ出展企業が多かったせいか、ブース幅が 2m にも満たない出展企業や、写真や説明図、ディスプレイだけで装置や部品が展示されていない企業が多かった。しかしながら参加者数は多く、3 日間に亘って常に会場は混み合っていた。

全体の日程は、7 月 11 日から 5 日間、半導体プロセス（エッチング、リソグラフィ、洗浄など）やデバイス設計、製造に関するセミナーが開催され、12 ~ 14 日に展示会が並行開催された。セミナーや展示の内容は、LSI 製造に関するものが殆どであり、基盤技術的な展示は全く見られなかった。今回は、テーマを「LSI 製造」に集中限定したものである。

展示企業は大小様々で、半導体産業にいかにも多くの多様な企業が関わっているかを強く印象づけられた。広いブースを確保しているのは概ね有名企業であったが、これに負けじと、広いブースに装置や部品を置いて、製品 PR をしている日本の先進的な企業も見られた。

米国代理店を通して出展している企業も多かったので、出展企業の国別分類をすることは容易ではないが、日米の他には韓国企業が広範な分野で出展していたことが印象的であった。



南北会場

全体的には以上の状況であり、各社とも先端的な技術展示は殆ど無く、むしろ主力製品の拡販が主目的であったように感じられた。実際、展示は前述したイメージ展示に止め、ブース内にユーザーとの打合せコーナーを設けた企業が多く見られた。従って、説明要員も営業関係の方が多く、技術的な質問には答えられない場合が多かった。

会場はウエハプロセスに関する製造装置、材料、部品、製造プロセス制御、ソフト、コンサルティングの分野に分かれて展示されていたが、実際に見学しても、必ずしもこのような明確な境

界は感じられなかった。記憶に残った展示品は、配管、バルブ、ランプ、リニアモータ及び搬送関係、ターゲット材料、分子ターボポンプ、洗浄設備、ウエハハンドリング・ロボット、クラスター・ツール等であった。

興味深かったのは、マイクロソフトやニッサンによる自動車の展示であった。これはカー・エレクトロニクス、自動車の高度な IT 化が、今後の大きな発展分野と考えられている証左であろう。

今回のセミコン・ウエストを総括すると、実用から遠い先端技術を避け、各社の主力製品の営業活動が展示の主目的であったと言える。今後も、この傾向が続くかどうかは興味深いところではあるが、LSI を中心とする半導体産業が完全に成熟したことを明確に宣言した展示会であった。



常に混雑していた会場入口

(株)神戸製鋼所 小橋宏司